表 過去の災害被害(火災)

西暦	年号	年	発災日(西暦)	災害名	被災地域	規模の大きさ等	被災状況		その他(当該災害の教訓をもとに導入された制度、原資料名やその所在場所、その他)	
							(ア)概要(発災の状況、復旧・復興のためにとられた措置、経済社会的影響、各種エピソード等)	(イ)被害数(死者数、倒壊建物数等)	その他コメント	参考文献
1657	明暦	3	1657/1/18	明暦の大火(振袖火事)	江戸	江戸の大半焼失	○江戸三大大火の一つ。火元は、本郷丸山の本妙寺と言われており、火災は強風に煽られて湯島、駿河台一帯に瞬く間に広がった。霊巌寺に避難していた人々は逃げ場を失い9,600人が死亡。また日本橋から浅草方面に逃げる2万3千人は浅草橋前で圧死または溺死した。翌19日江戸城本丸を焼いた。火事は20日午前に鎮火するが、江戸の6割が灰となる。この火事で江戸城が全焼、日本橋にあった吉原も、この火事で浅草の北に移転した。死者10万7000人で、史上、関東大震災につぐ災害であるとともに、西暦64年のローマの大火、1666年のロンドンの大火とともに三大火災と言われる。 ○[経済社会]行政対応 この火事の後、「定火消」という消防組織を作り、さまざまな防火対策を実施。延焼を防ぐため、町のところどころに火除地(空き地)や火除土手を作り、道の幅を広くした。また、幕府は、商店などは燃えにくい土蔵造りにすることを勧め、町には火の見やぐらを作り、防火用水を置くようにした。	[死傷者等]焼死者・圧死者・溺死者10万8千人		・http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lib r/times/times02.htm ・http://www.osoushiki-plaza.com/institut/dw/199204.html ・http://www6.ocn.ne.jp/~honmyoji/taika/hurikaji.pdf
1682	天和	2	1682/12/28	お七火事	江戸		○駒込の大円寺から出た火は強風にあおられて南進し、本郷、神田、日本橋に達した。さらには本所、浅草まで焼いたこの火事は、夜に入ってようやく鎮火するが、それまでに大名屋敷や旗本屋敷、寺院をあわせると300以上、町家は5万以上が焼け、3,500名を超す焼死者を出した。	[死傷者等]焼死者3,500人以上 [建物被害等]大名屋敷・旗本屋敷・寺院300以上、民家は5万戸以上		・http://www.zdnet.co.jp/netlife/links/9912/28/past.html ・http://www.osoushiki-plaza.com/institut/dw/199204.html
1724	享保	9	1724/3/21	妙知焼け	大坂	大坂408町焼失	○近世大坂三度の大火の一つ。南堀江橋橋通三丁目(現・西区南堀江二丁目)金屋治兵衛の祖母妙知尼宅より出火、折からの強風に煽られて燃え広がり、翌22日申の刻(午後4時)に鎮火するまで、大坂三郷の実に3分の2にあたる408町が灰燼に帰す大惨事となった。1万1千7百余戸焼失。	[建物被害等]焼失町408町、焼失家屋1万1千7百余戸		・http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/shotenji/46_taika.html
1772	明和	9	1772/2/29	江戸明和の大火(目黒行人坂の火災)	江戸	江戸934町焼失	○江戸三大大火の一つ。目黒の大円寺から火災が発生し、目黒から千住まで細長く延焼。焼失町数934町、焼死者14,700人。	[死傷者等]焼死者14,700人 [建物被害等]焼失町934町		・http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lib r/qa/qa_32.htm ・http://www.osoushiki-plaza.com/institut/dw/199204.html
1773	安永	2	1773/3/29	宇都宮大火	宇都宮		○二荒山神社焼失。死者130人、焼失家屋1817戸。	[死傷者等]焼死者130人 [建物被害等]焼失家屋1817戸		・http://www.pref.tochigi.jp/bousai/bousai/kako.html
1788	天明	8	1788/1/30	天明の大火	京都	京都市街80%焼失	○鴨川畔の宮川町の団乗図子(どんぐりずし)より出火、内裏・二条城をはじめ、寺社を焼いて2月2日朝鎮火する。焼失家屋3万7千戸、焼死者1,800人を超えた。応仁の乱(1467〜77)以来の京都空前の大火。 ○[経済社会]行政対応 幕府は罹災民に対して米銀の貸与を行なった他、米価の高騰を禁じた。	[死傷者等]焼死者1,800人、焼失家屋3万7千戸		・http://www.s-net.ne.jp/benri/institut/dw/199204.html
1806	文化	3	1806/3/4	丙寅の大火	江戸	江戸530町焼失	○江戸三大大火の一つ。芝・車町(現在の港区高輪2丁目付近)の材木屋付近から出火。おりからの激しい南風にあおられ、たちまち燃え広がり、京橋、日本橋のほとんどを焼きつくし、神田、浅草まで広がり、江戸の下町530町を焼く大火となった。死者約1200人。 ○[経済社会]行政対応 この大火で焼け出された人を救うため、奉行所は、仮の宿と食事(一人当たり白米3合・握り飯3個)を提供する御救小屋(おすくいごや)を15箇所建てた。	[死傷者等]焼死者1,200人 [建物被害等]焼失町530町		・http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lib r/times/times02.htm ・http://www.s-net.ne.jp/benri/institut/dw/199204.html
1829	文政	12	1829/3/21	江戸・己丑の大火	江戸		○神田の材木屋から出火、翌朝鎮火するまでに類焼した家屋は17万戸、焼死者、溺死者は2,800人に及ぶ。	[死傷者等]焼死者・溺死者2,800人 [建物被害等]焼失家屋17万戸		・http://www.s-net.ne.jp/benri/institut/dw/199204.html
1837	天保	8	1837/2/19	大塩焼け	大坂	大坂115町焼失	○近世大坂三度の大火の一つ。大塩平八郎の蜂起に伴い、大塩の屋敷より出火。21日夜まで燃えつづけ、焼失区域は天満・船場・上町のほぼ全域、総町数115町にのぼった。	[建物被害等]焼失町115町		・http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/shotenji/46_taika.html
1863	文久	3	1863/11/21	新町焼け	大坂	大坂150町焼失	○近世大坂三度の大火の一つ。新町橋東詰五幸町(現・中央区南船場)より出火、強い西風によって東に燃え広がり、23日午前9時ごろようやく鎮火、船場・上町を中心に約150町が焼失した。	[建物被害等]焼失町150町		・http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/shotenji/46_taika.html
1872	明治	5	1872/3/26	銀座の大火	銀座、京橋一帯	34町焼失	○午後3時頃、和田倉門内の兵部省添屋敷から出火。銀座、京橋を含め34町、家屋2,926戸を焼く。	[建物被害等]焼失町34町、焼失家屋2,926戸		・http://members.tripod.co.jp/Accord/BIGLOBE/SANKA/nip11470.htm
1879	明治	12	1879/2/26	築地の大火	日本橋、京橋、築地一帯	65町焼失	○正午過ぎ、日本橋箔屋町16番地から出火。日本橋、京橋、築地一帯の65町10,613戸を焼く。	[建物被害等]焼失町65町、焼失家屋10,613戸		・http://members.tripod.co.jp/Accord/BIGLOBE/SANKA/nip11470.htm
1881	明治	14	1881/1/26	神田の大火	神田、日本橋、本所、深川	52町焼失	○午前1時30分頃、神田松枝町22番地から出火。被害は神田・日本橋・本所・深川の4区にわたり、52町10,637戸を焼く。	[建物被害等]焼失町52町、焼失家屋10,637戸		・http://members.tripod.co.jp/Accord/BIGLOBE/SANKA/nip11470.htm
1892	明治	44	1911/4/9	吉原の大火	浅草、山谷堀、千束町、南千住	23町焼失	○午前11時25分、浅草新吉原遊廓から出火。山谷堀・千束町・南千住まで延焼、23町6,555戸を焼く。	[建物被害等]焼失町52町、焼失家屋10,637戸		・http://members.tripod.co.jp/Accord/BIGLOBE/SANKA/nip11470.htm
1913	大正	2	1913/3/3	沼津の大火	沼津	300町歩焼失	○沼津町出口から出火、300町歩を焼きつくし、1,468戸の家屋が焼失。死者9名、重軽傷者168名。 ○[経済社会]行政対応 沼津町ではこの大火を契機に道路改良を計画し、市区改正事業を実施し、1915年に完成した。	[死傷者等]死者9名、重軽傷者168名 [建物被害等]焼失町歩300町歩、焼失家屋1,468戸		・http://www.city.numazu.shizuoka.jp/c-asobou/nrekishi/menu_1/taika_2.htm
1921	大正	10	1921/4/6	浅草の大火	浅草一帯		○浅草区田町一丁目37番地から出火。全焼1,227戸、半焼72戸。	[建物被害等]全焼家屋1,227戸、半鐘家屋72戸		・http://members.tripod.co.jp/Accord/BIGLOBE/SANKA/nip11470.htm

1934	昭和	9	1934/3/21	函館大火	函館	函館市街の1/3焼失（焼失面積：4,163,967㎡）	○午後７時前、住吉町の神職の家から出火、雪をまじえた列風にあおられ、市街地の3分の1以上を焼きつくした。出火以来14時間で鎮火したが、焼死者は2,165人にのぼった。また吹雪の中を逃げ延びた被災者も寒さのために385人が凍死し、公共施設に収容されてからの死者も少なくなかった。この大火は関東震災に次ぐ惨事といわれた。	[死傷者等]焼死・溺死・凍死者等2,166人 [建物被害等]焼失家屋24,186戸、焼失町41町		・http://www.s-net.ne.jp/benri/institut/dw/199204.html ・http://www.donan.info/old/cont/taika/top.html
1947	昭和	22	1947/4/20	飯田市大火	飯田市	飯田市街の2/3近く焼失	○城下町の古い面影を残す市街地の3分の2近くを焼失させた。被害も焼失家屋 3,577戸、罹災人口17,800人と甚大なものであった。 ○[経済社会]損害額：約15億円	[死傷者等]罹災者17,800人 [建物被害等]焼失家屋3,577戸		・http://www.city.iida.nagano.jp/suidou/rekisi/j_rekisi/j_rek_c.html
1949	昭和	24	1949/2/20	能代大火	能代市	焼失面積約83万㎡	○災発生時には、平均風速13mの強い西風が吹いており、出火後木造家屋をなめるようにして燃えていった。当日の最大延焼速度は一分間あたり12.5mに達し、延焼度は一分間平均450平方メートルと推定された。午前二時頃になると周辺から消防ポンプが続々と到着したが、水槽のある場所や市内の状態がよくわからず、消防活動はほとんど防御不能となった。出火してから約7時間燃えつづけた火は、能代の中心地帯を燃えつくした。土蔵は焼失区域内に473棟あったが、このうち346棟、73%が焼け落ちた。例年この時期は雪が積もっているのだが、当年は小雪でほとんど積もっていなかったことも、火災の拡大に影響した。	[死傷者等]死者2名、罹災者8,790人 [建物被害等]罹災家屋等2,238戸		・http://inpaku.dpri.kyoto-u.ac.jp/jp/think/town/restoration/contents.files/noshiro1.html
1952	昭和	27	1952/4/17	鳥取大火	鳥取市	鳥取市街の1/3（焼失面積：約160万㎡）焼失	○戦後最大の都市火災。火災当日は、強い南西風が吹き込むというフェーン現象が起きていた。午後3時頃に出火した火災があり、付近住民のバケツリレーにて消火しすぐに鎮火した。しかし、その後近辺で再び出火し、これが強風に煽られ大火へと発展した。4時30分頃には2キロ先に飛び火し全市街地が火災に包まれた。午後8時には全市街地の3分の1が炎に包まれた。その後風がおさまりつつあったが、火流でおこる渦巻き気流によって火は衰えず、9時過ぎには消防用水もつき、消火不能となった。火災はその後も延焼を続け、翌日午前4時頃に鎮火した。死者2名、重軽傷者3,965人、焼失家屋7,240戸。 ○[経済社会]損害額：約193億円 ○[経済社会]政府の対応 ・1952年に成立した耐火建築物促進法が施行された最初の都市となった。 ・この法律以後、日本の都市防火対策は、道路網の整備と沿道不燃化による遮断帯の形成が主流となった。大規模な空地が必要な緑地帯を持つ50～100mに達する幅員道路が作られることは稀になり、少ない計画用地で行うことが可能な道路幅員と不燃建築物帯による延焼遮断機能を有する都市計画が行われるようになった。	[死傷者等]死者3人、重軽傷者3,965人 [建物被害等]焼失家屋7,240戸		・http://inpaku.dpri.kyoto-u.ac.jp/jp/think/town/restoration/contents.files/tottori1.html ・http://www.nnn.co.jp/tokusyu/focus/focus020417.html
1955	昭和	30	1955/10/1	新潟大火	新潟市		○火災当日は台風が近づいており、新潟市では9月30日の午前10時30分に火災警報を発令していた。この日、日没頃には風速10mを超え荒れ狂った。10月1日未明の最も強風時に出火し、瞬く間に新潟市の繁華街を総なめにし、一面が火の海と化した。この火災は建物密集度もさることながら、飛び火による延焼拡大が多く、消防活動もほとんど機能しない状況であった。また、耐火造ビルから高層耐火建築物への飛び火が発生するなど、耐火建築物でも開口部仕様によって延焼することを示した事例であった。	[死傷者等]死者0人、罹災者5,901人 [建物被害等]焼失家屋1,864戸		・http://inpaku.dpri.kyoto-u.ac.jp/jp/think/town/restoration/contents.files/niigata1.html
1972	昭和	47	1972/5/13	千日デパート火災	大阪市		○午後10時半ころ、大阪ミナミの繁華街で衝撃的なビル火災が発生した。それが、千日デパート火災である。３階、改装工事中のデパート衣料品売場付近から出火し、急速に燃え広がり、エスカレーター部分を介して２階と４階を焼損した。煙は、エレベーターシャフト、空調ダクト、階段室から上階へ急速に伝搬し、何の火災連絡もないまま、７階で営業していたチャイナサロン・プレイタウンの客や従業員が、噴き出す濃煙でパニック状態となり118人の生命が失われた。このビルは昭和７年に大阪歌舞伎座として建てられたものであり、戦災を免れ、何度も改築・改装を行いながら利用されてきた７階建ての複合ビルである。当時、国外では超高層ビル火災が相次ぎ、国内では雑居ビル火災が問題とされていた中で発生した火災である。	[死傷者等]死者118人、負傷者42人		・http://www.kenchiku-bosai.or.jp/KenchikuBousai/9909.htm
1973	昭和	48	1973/11/29	大洋デパート火災	熊本市		○13時15分頃、改装工事をしながら営業中の熊本大洋デパートで火災が発生。買物客48名、従業員53名、工事関係者3名の合計104人が死亡する大惨事となった。出火したのは２階から３階に上がる階段の踊り場であり、積み上げてあったダンボ ールから火が出ているのを従業員が発見したが、手の施しようがなかった。この火が商品の寝具などに燃え移り、結局３～８階を全焼。消えるまでに8時間を要した。出火原因は不明。	[死傷者等]死者104人		・http://www.ffortune.net/social/seso/nihon-today/sinran.htm
1976	昭和	51	1976/10/29	酒田市大火	酒田市	酒田市街33万5000㎡焼失	○夕方、山形県・酒田市の映画館「グリーンハウス」のボイラー室から出火。折からの最大30メートルの強風にあおられ、火元から東南方面に広がり家屋1014戸、33万5000平方メートルを全焼。死者1名、罹災者は3,700名。出火11時間後の午前4時30分にようやく鎮火したが、現場はまるで空襲にでもあったような無残な状態であった。	[死傷者等]死者1人、罹災者3,700人 [建物被害等]焼失家屋7,240戸		・http://gonta13.tripod.co.jp/newpage11.htm
1982	昭和	57	1982/2/8	ホテルニュージャパン大火災	東京（赤坂）	焼損面積4,186㎡	○午前3時30分頃、ホテルニュージャパンが出火。この日の宿泊客は315名。内、熱と煙に耐え切れなかった宿泊客が9階、10階から飛び降りるなど33名の命が失われた。直接の原因は9階で止まっていた英国人の寝タバコが原因と言われているが、被害をここまで大きくしたのは横井社長の徹底した合理化で宿直従業員の少なさや消防庁から再三指導を受けていたスプリンクラー施設の不備が問題となった。また。非常ベルのスイッチを切っていたことも犠牲者を増やす結果となった。 ○[経済社会]損害額：約17億円	[死傷者等]死者33人、負傷者34人		・http://gonta13.tripod.co.jp/newpage11.htm
2001	平成	13	2001/9/1	新宿歌舞伎町雑居ビル火災	東京（新宿歌舞伎町）	焼損面積160㎡	○午前1時ごろ、東京都新宿区歌舞伎町1丁目の地上4階、地下2階建て雑居ビル（延べ約500㎡）の3階防火戸付近より出火した。火災およびそれにともなう煙は3、4階フロア全体におよんだ。焼失面積は、3、4階合わせておよそ160㎡。死者44名、重軽傷者3名を出す大惨事となった。。同ビルの店舗は、避難する際の障害となる商品の放置など消防法に違反していた。	[死傷者等]死者44人、負傷者3人		・http://www.nliro.or.jp/contents/disclosure/risk/risk61-4.pdf